

埼玉県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

税金に感謝

深谷市立深谷中学校 一年 大澤 健也

ぼくは、入学式の日、教育委員の方からたくさんの教科書をいただきました。

その時は、夢中で何も気づかなかったけれど、式の中で校長先生の話聞いていたら、校長先生は、

「今、いただいた教科書は皆さんのお父さんやお母さんをはじめ、社会の大人たちが一生懸命働いて得た所得の中から納められた税金により無償で渡され、皆さんには教科書で勉強する義務があります。」

という話をしていました。

ぼくは、この話がとても心に残り、教科書を見るたびに思い出します。

今までにも、小学生の六年間の中に何冊もの教科書をいただいていたのに、教科書はあってあたりまえといった感じでした。

しかし、校長先生の話聞き、教科書に対する思いがだいぶ変わりました。

まずは、税金という国の決まりにより納税した一部から、公立に通う小・中学生には、教科書を無償で配布するというシステムのありがたさを知り、教科書をいただけることへの感謝の気持ちが、ぼくの心の中に生まれました。

また、一冊の教科書の陰には、仕事で大変な事、嫌な事があっても頑張って働く大人たちの努力や苦労があることを知り、貴重な収入の中から税金を納めてくれた方々への恩返しとして、ぼくができる事は、教科書を何度も繰り返し読み、努力をおしまず、一生懸命勉強する事だと思いました。

そして、教科書を大切に使うという事は、小学生の時から変わりません。

中学生になると、一冊の教科書が厚くなり、かばんがとても重く感じますが、この重みは単に量的なものではなく、教科書を無償でいただいた重さということを忘れないようにしたいと思います。

教科書だけでなく、ぼくの通う学校にある机やイス、すべてが税金によりまかなわれているものです。とても大切に、そしてていねいに扱う人もいれば、共同で使うものだから、ぼく一人が、私一人が、という気持ちがあり、落書きをしたり、乱暴に扱う人もいます。全校生徒の気持ちが一つになるのは難しいようです。

皆が税金のありがたさを知り、納めた人たちへの感謝の気持ちを持つことが必要であるような気がします。

ぼくは感謝の気持ちを忘れません。